

香川県水産業基本計画（案）【素案からの主な変更点】

水産審議会委員等からの意見や最近の動向を踏まえ、素案から次のとおり変更を行いました。

項目	素案	計画案（変更後）	変更理由
第1章 本県水産業をとりまく現状 4 漁場環境 (5) 藻場	藻場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、魚介類の産卵や稚魚の育成の場として重要な役割を担っています。	藻場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、魚介類の産卵や稚魚の育成の場として重要な役割を担っており、 <u>二酸化炭素の吸収源としても期待されています。</u>	藻場の機能として、脱炭素の観点を追記
第3章 施策の展開 第2節 持続可能な漁業経営と所得向上の実現 1 養殖業の生産振興 【現状と課題】	○ 貝類養殖業では、志度湾や多度津沖等で垂下式のカキ養殖が行われています。近年は、品質の向上や管理の効率化などが期待できる新たな養殖手法として、バスケット方式が拡がりを見せていますが、波や潮流などの海域条件に応じた適切な管理手法の検討が安定生産に向けての課題となっています。 <u>また、年間を通じて出荷できる三倍体種苗のニーズが増加しており、その安定確保が課題となっています。</u> 加えて、むき身作業の際に大量に発生するカキ殻の処分や有効活用も引き続き重要な課題です。	○ 貝類養殖業では、志度湾や多度津沖等で垂下式のカキ養殖が行われています。近年は、品質の向上や管理の効率化、 <u>周年出荷への対応</u> などが期待できる新たな養殖手法として、 <u>三倍体種苗を用いたバスケット方式が拡がりを見せていますが、波や潮流などの海域条件に応じた適切な管理手法の検討や種苗の安定確保が安定生産に向けての課題となっています。</u> ○ <u>また、海域環境が変化する中、令和7年には瀬戸内海の広範囲で養殖カキの大量へい死が発生するなど、カキ養殖における生産リスクが高まっています。</u> 加えて、むき身作業の際に大量に発生するカキ殻の処分や有効活用も引き続き重要な課題です。	最近の動向として、令和7年のカキの大量へい死に関する記述を追加。 併せて、環境変化への対応の観点から、カキ養殖漁場における環境監視の取り組みを促進する旨を追記。

【重点施策】 (3) 貝類養殖業の振興	○ バスケット方式によるカキ養殖の安定的な生産に向け、海域環境や成育状況の評価、管理手法の改良等について技術的な指導を実施するとともに、三倍体カキ種苗の安定的な確保に向けた検討を行い、さらなる普及を図ります。	○ <u>自動観測センサー等を活用した生育環境の監視</u>、むき身作業により発生したカキ殻の有効活用、海底耕うん等による養殖漁場の底質改善、ナルトビエイ等の食害魚に対する防除対策などの取組みを促進します。	
第3節 漁業を支える漁村 地域の活性化 1 漁業の担い手確保と組織強化 【現状と課題】 【重点施策】 (1) 担い手の確保・育成	(新設) ○ 本県の漁業を知る機会として漁業体験会や漁業就業フェアを開催するとともに、移住支援施策とも連携し、さまざまな機会や媒体を通じて香川県で漁業を営むことの魅力を積極的に情報発信することで、漁業への関心を高め、漁業就業を促進します。 (新設)	○ <u>また、漁業就業者の減少や高齢化が進行し、漁村の活力が低下する中、地域で中核的な役割を担う人材の育成や、女性など多様な人材が活躍できる環境づくりが課題となっています。</u> ○ 本県の漁業を知る機会として漁業体験会や漁業就業フェアを開催するとともに、移住支援施策とも連携し、さまざまな機会や媒体を通じて香川県で漁業を営むことの魅力を積極的に情報発信することで、漁業への関心を高め、<u>多様な人材の漁業就業を促進します。</u> ○ <u>漁業士をはじめとした地域の中核的な担い手の活動や交流を促進するとともに、漁協女性部等の活動支援や働きやすい労働環境の整備等を通じて、漁業現場や漁村における女性の活躍を推進します。</u>	担い手人材の活躍の観点として、地域の中核的な担い手や女性等多様な人材の活躍に関する記述を追記